

茨城県就学前教育・家庭教育実態調査結果報告書
【保護者編】

概要版

平成29年1月
茨城県教育委員会



調査の目的・方法等

■ 調査の目的

本調査は、茨城県の就学前教育・家庭教育の実態を明らかにし、就学前教育・家庭教育の今後のあり方を検討する際の基礎とするとともに、就学前教育・家庭教育ビジョン（仮）の策定に反映することを目的とする。

■ 調査の対象

本調査の対象者は、茨城県在住の0～5歳児の子どもを持つ保護者である。抽出方法は以下のとおり。抽出数は3,000である。

子どもの年齢	抽出方法
0～3歳	県内の各市町村に調査票を送付し、0～3歳児検診時に保護者に調査票を配布
4～5歳	県内の各施設（幼稚園、保育所、認定こども園）に調査票を送付し、施設から保護者に調査票を配布

■ 調査方法・回収状況

調査方法は、郵送調査法（郵送配布・郵送回収）を用い、調査期間は平成28年9月1日から9月16日までとした。

対象3,013票に対し、回収された調査票は1,420票である。無効票が292票だったため、1,128票を有効回答票とした。有効回収率は37.4%である。

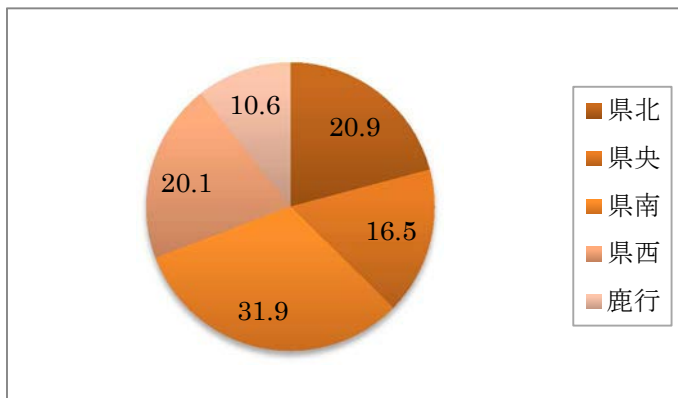
■ 本報告書を読む際の留意点

- グラフ中の「SA」は単数回答の、「MA」は複数回答の集計結果を表し、「n=〇〇」はサンプル数を表す。グラフ内数値や表の単位は、特に断りのない限り「%」である。
- グラフ中の「n=〇〇」はサンプル数を表す。グラフ内数値や表の単位は、特に断りのない限り「%」である。
- 本文グラフ及び表では、無回答や無効回答を除いて集計した。
- 単数回答の単純集計結果を表す本文グラフの中で、百分率の内訳数値は、四捨五入の結果、合計が100.0にならない場合もある。
- 複数回答の集計結果を表すグラフまたは集計表の場合、「%」は選択肢の構成比を表すものではなく、回答のあったサンプル数に対する割合を示している。
- 本文中コメントでは、およその傾向を概括するために「〇割」と「〇%」という表現を併用している。設問の選択肢を引用する場合は、省略して表現している場合もある。



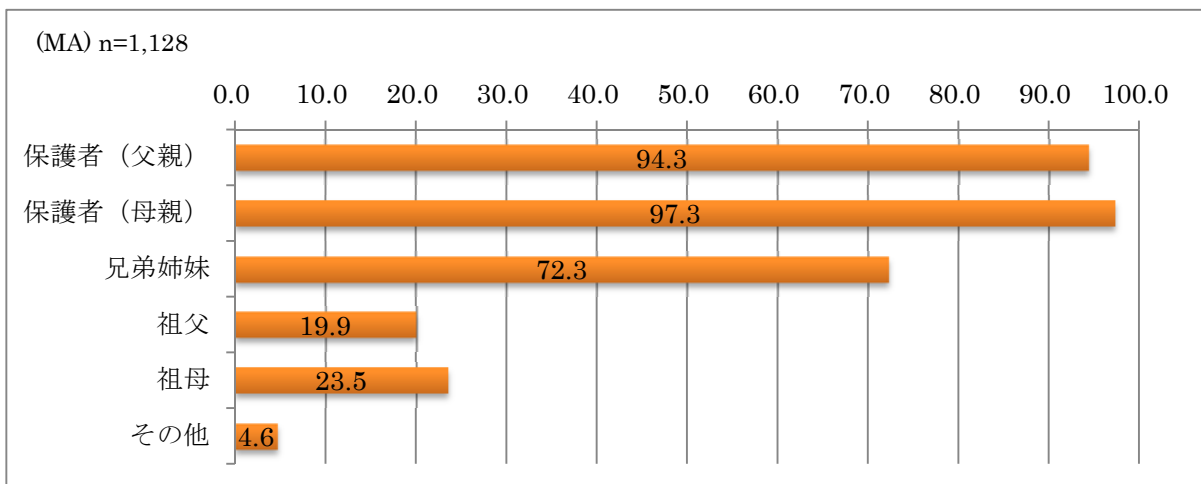
保護者の方について

●住まいの状況

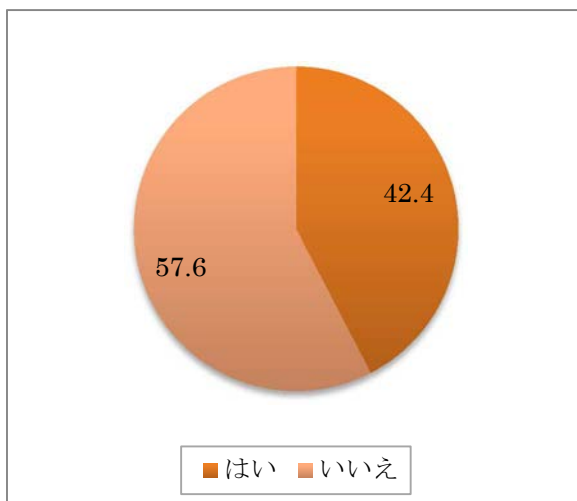


回答者が居住している地域は、「県北」(20.9%)、「県央」(16.5%)、「県南」(31.9%)、「県西」(20.1%)、「鹿行」(10.6%)となっている。

●子どもと同居の家族



●祖父母が近住



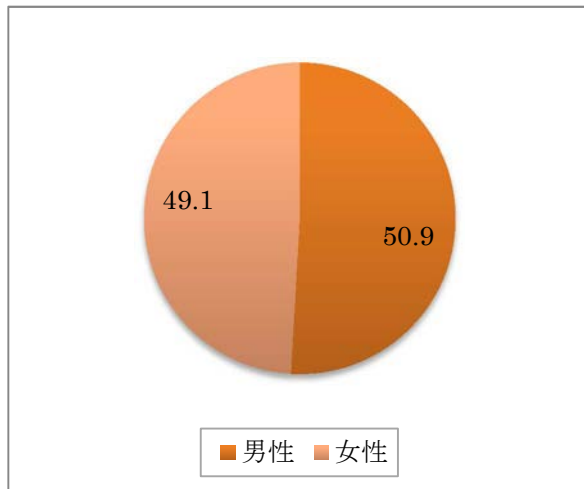
子どもと同居しているのは、「保護者(母親)」(97.3%)、「保護者(父親)」(94.3%)が、ともに9割を超えている。その他に、おじ、おば、會祖父母等の回答があった。

祖父母が同居している割合は、2割前後(「祖父」19.9%、「祖母」23.5%)、近住している割合は約4割(42.4%)となった。



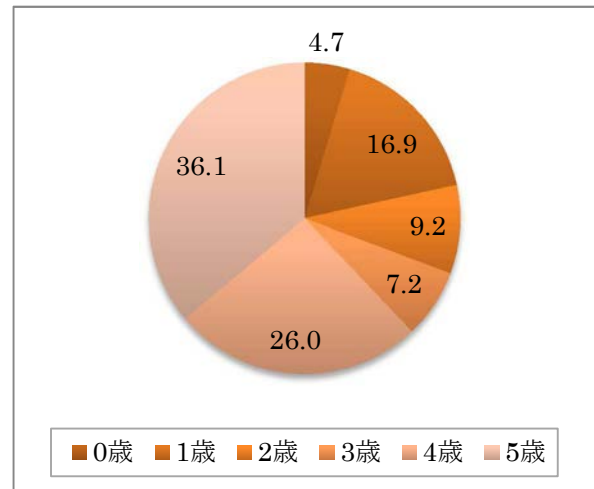
就学前の保護者・子どもの状況について

●子どもの性別



回答者の子どもの性別は、「男性」が50.9%、「女性」が49.1%となっている。

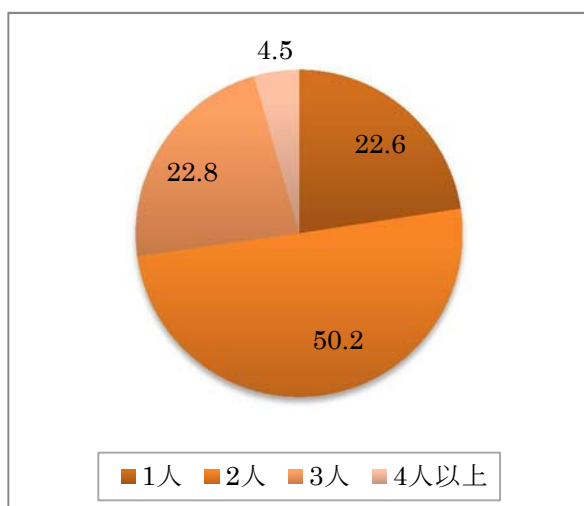
●子どもの年齢



回答者の子どもの年齢は、「5歳」(36.1%)、「4歳」(26.0%)の割合がやや高くなっている。

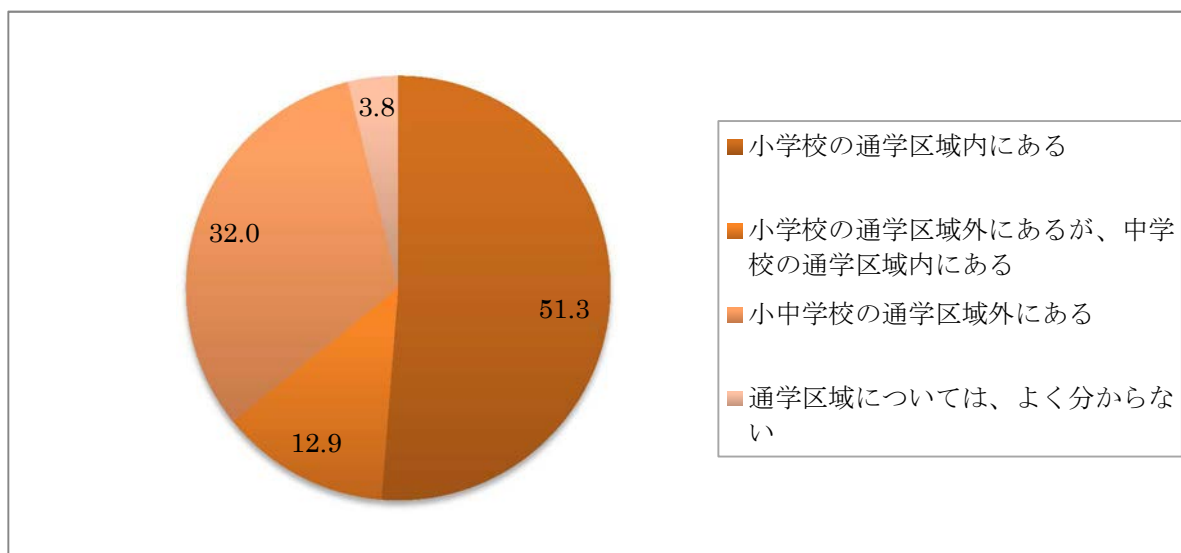
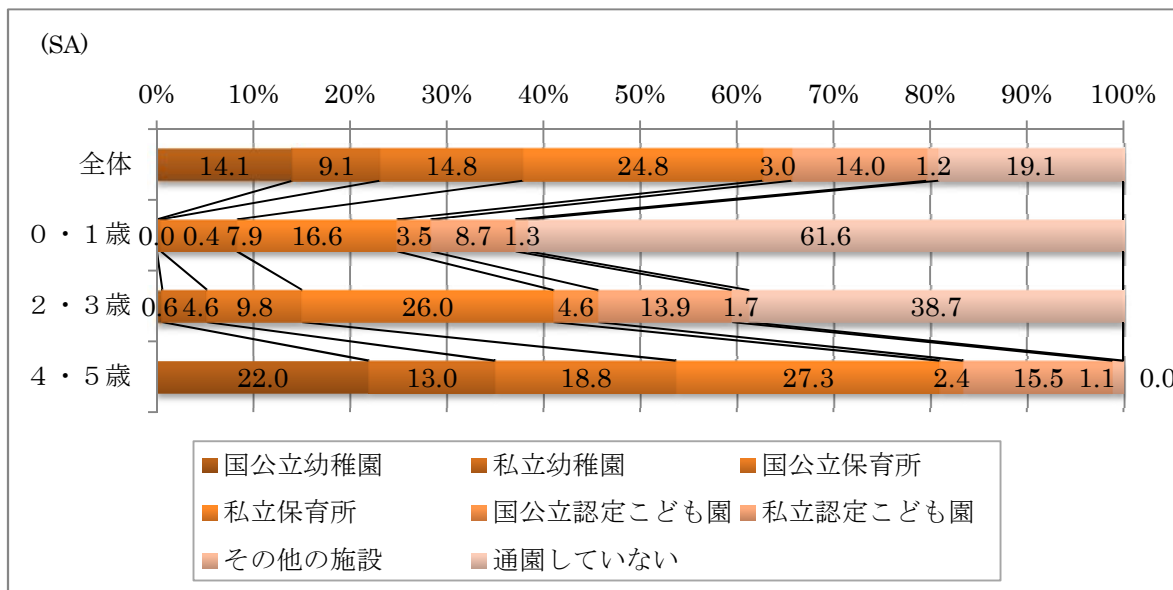
注：回答があった保護者の子どもの性別・年齢の構成については、回答を単純集計しているため、実際の性別・年齢構成割合と合致するものではない。

●子どもの兄弟・姉妹の人数



回答者の子どもの兄弟・姉妹の人数は、「2人」が約5割(50.2%)と最も高く、次いで「3人」(22.8%)、「1人」(22.6%)となっている。

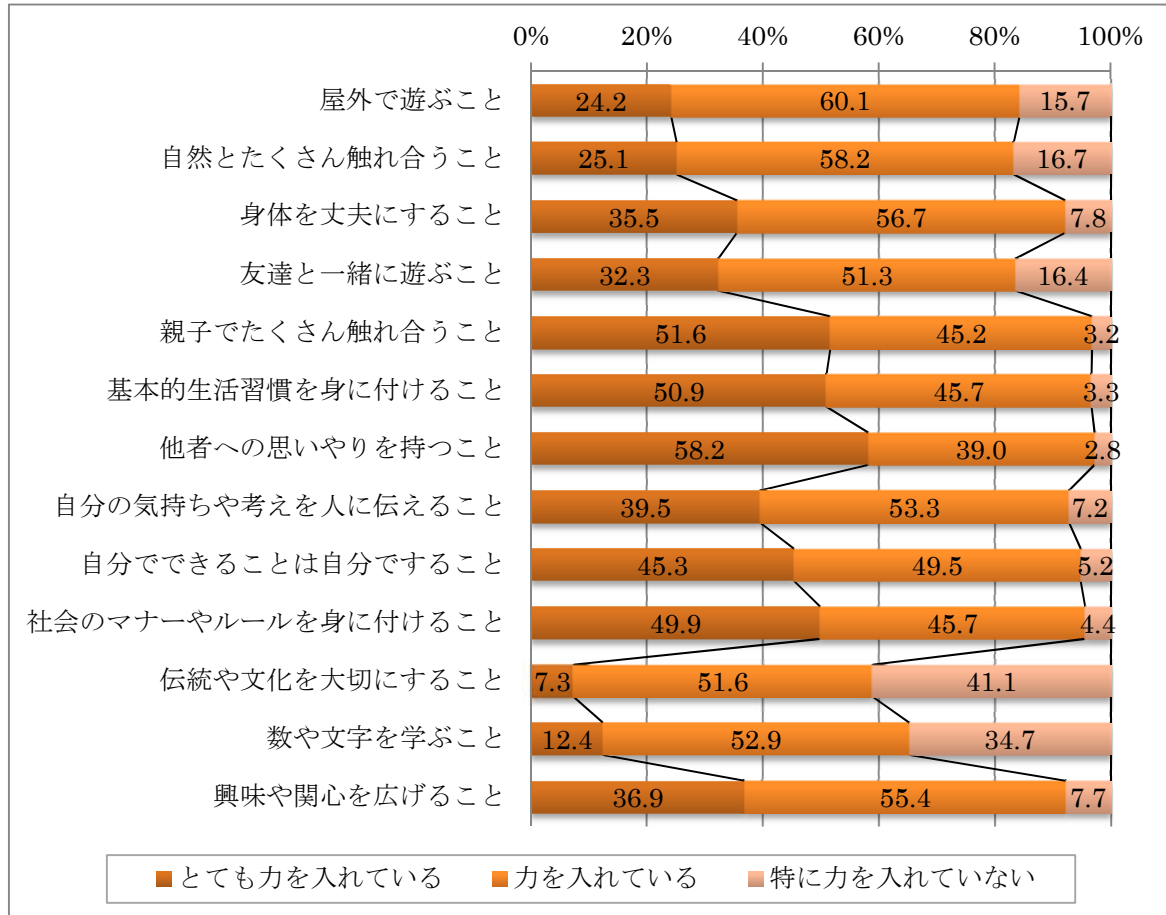
●子どもの通園状況



子どもの幼稚園・保育所等への通園の状況は、「保育所」(39.6%)が最も高くなっており、次いで「幼稚園」(23.1%)、「通園していない」(19.1%)となっている。なお、「0・1歳」では「通園していない」が約6割(61.6%)で最も高くなっている。「2・3歳」では、「通園していない」が約4割(38.7%)、「保育所」が35.8%となっており、「0・1歳」と比べて「通園していない」の割合が減少し、「保育所」の割合がやや高くなっている。

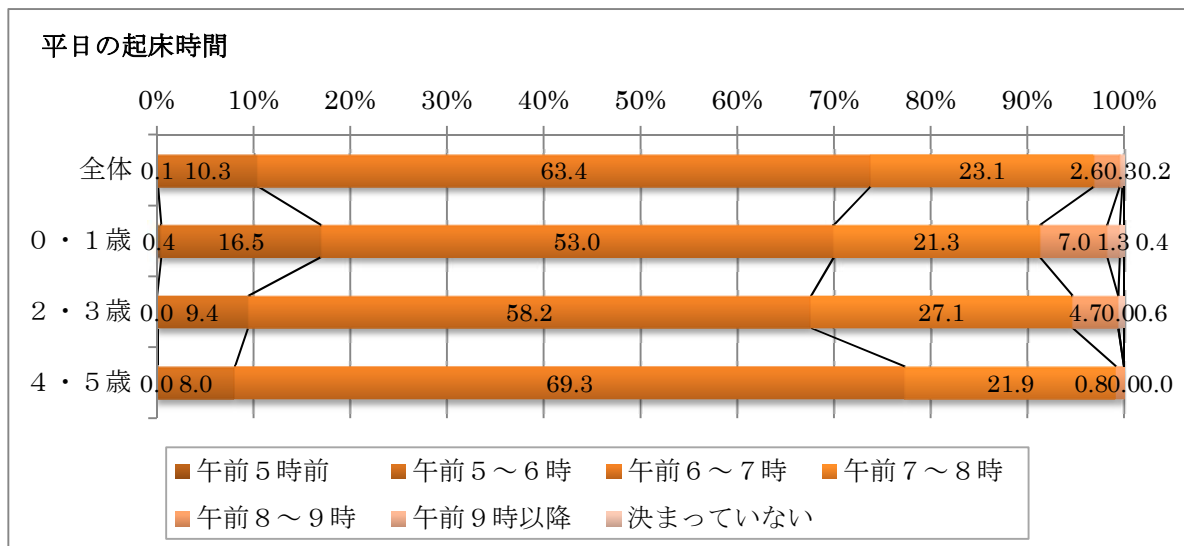
子どもが通園している幼稚園・保育所等は、「小学校の通学区域内にある」が約5割(51.3%)で最も高く、「小学校の通学区域外にあるが、中学校の通学区域内にある」(12.9%)と合わせると、6割以上(64.2%)が小中学区域内にあるという結果となった。

●子育てで力を入れていること

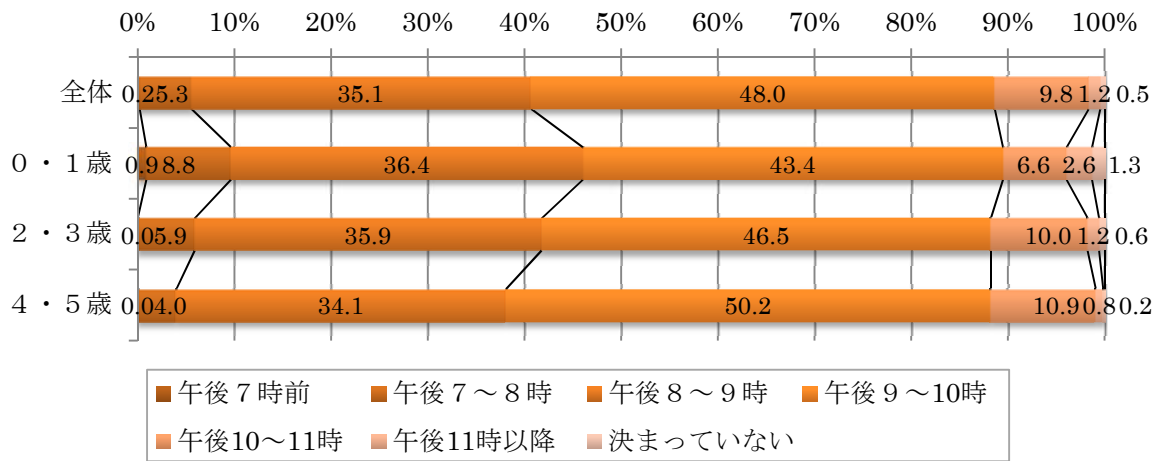


保護者が子育てにおいて「ととても力を入れている」ことは、「他者への思いやりを持つこと」が約6割（58.2%）と最も高く、次いで「親子でたくさん触れ合うこと」（51.6%）、基本的生活習慣を身に付けること」（50.9%）となっている。特に、「他者への思いやりを持つこと」は、「ととても力を入れている」（58.2%）と「力を入れている」（39.0%）を合わせた割合が9割（97.2%）を超えている。

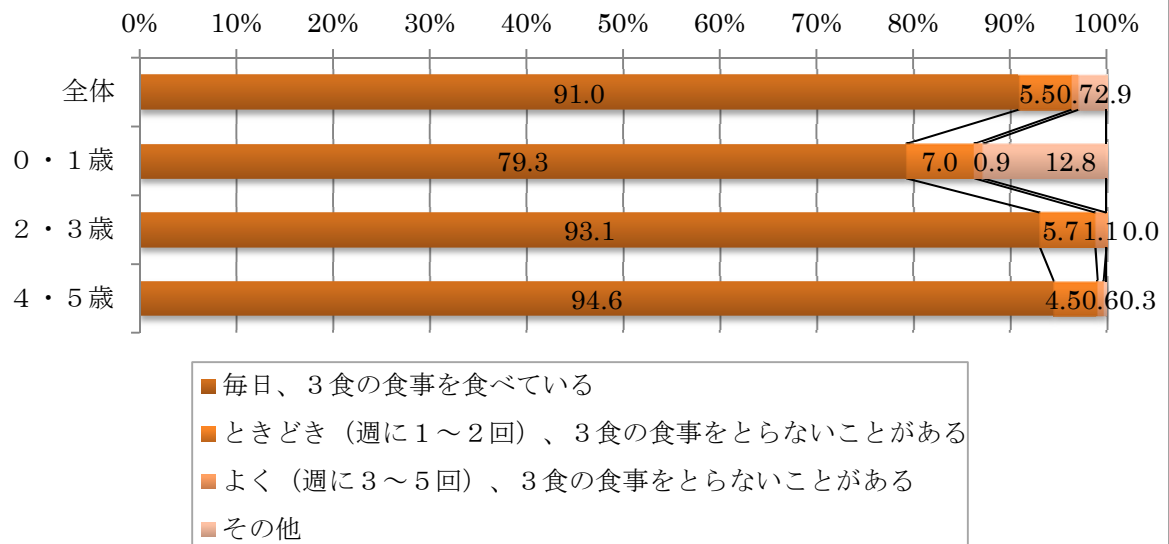
●家庭での子どもの生活について



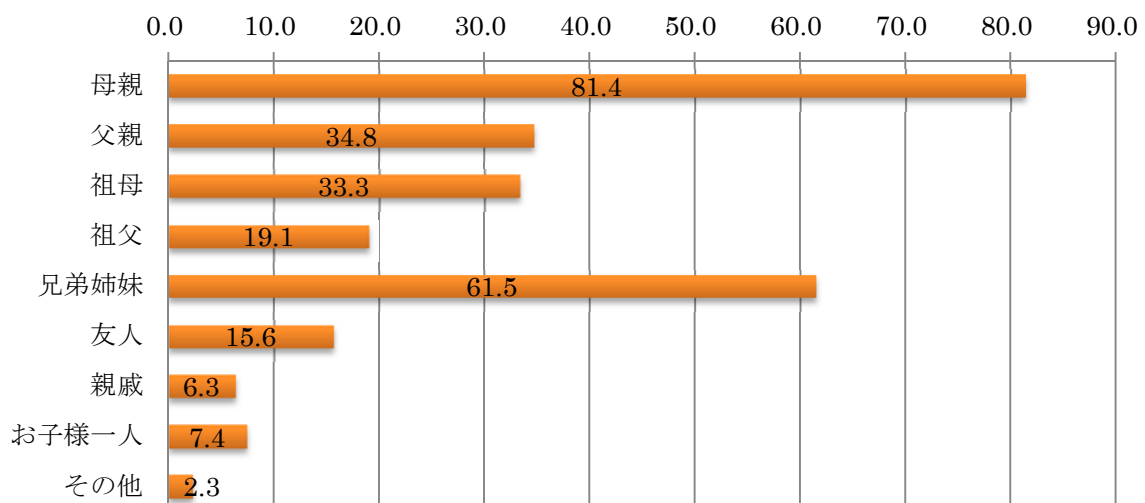
平日の就寝時間

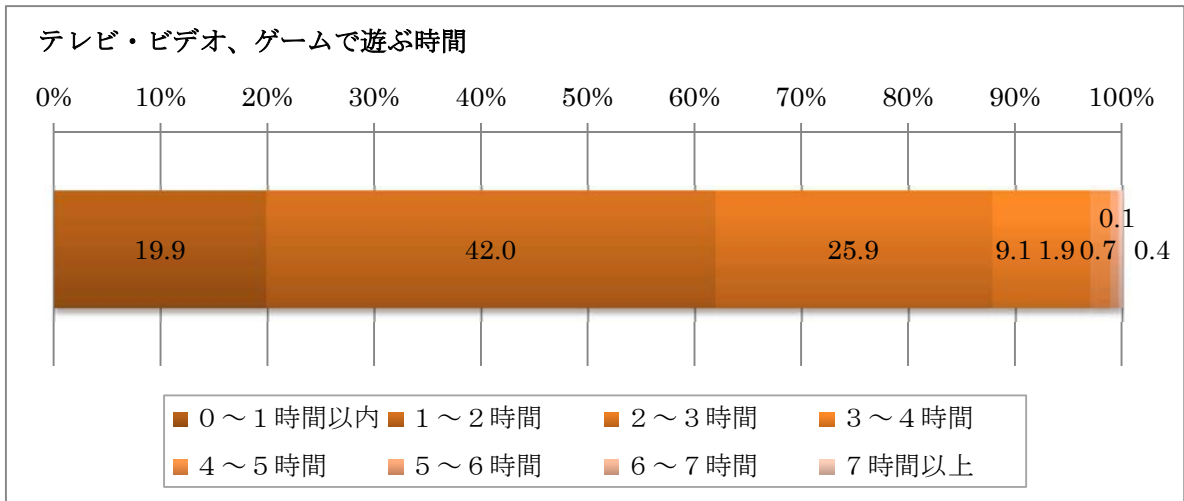


1日あたりの食事の回数



平日の子どもの遊び相手





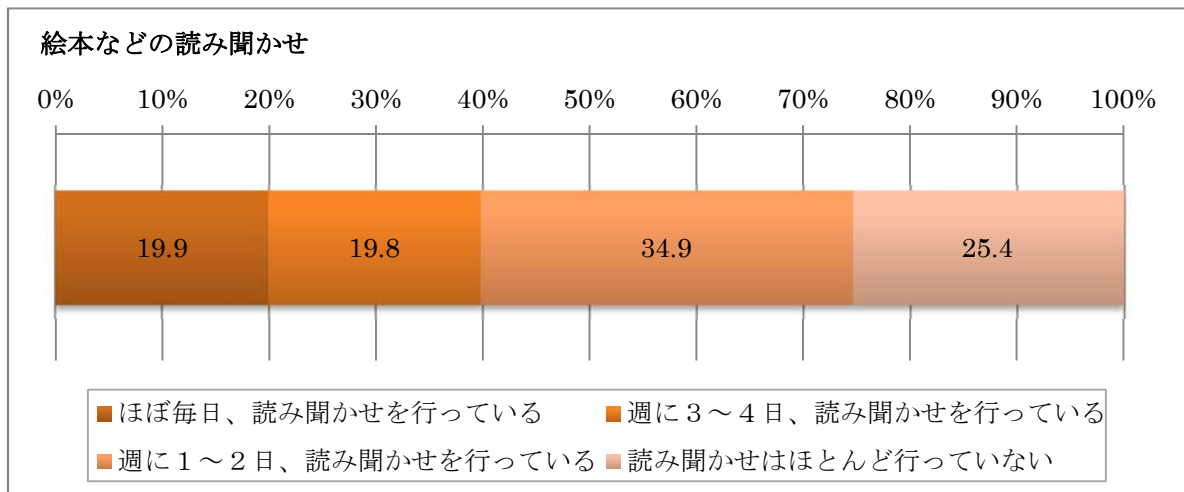
平日の子どもの起床時間は「午前6～7時」が約6割（63.4%）、就寝時間は「午後9～10時」が約半数（48.0%）を占めており、最も高い。

子どもの1日あたりの食事の回数は、「毎日、3食の食事を食べている」が約9割（91.0%）を占め、「ときどき（週に1～2回）3食の食事をとらないことがある」（5.5%）と合わせると、ほとんどの子どもが基本的に1日3回の食事をとっていると考えられる。ただし、0歳の子どものはまだ母乳や離乳食のため、その他の割合が高い。

また、平日は「母親」（81.4%）や「兄弟姉妹」（61.5%）と遊んでいることが多い。

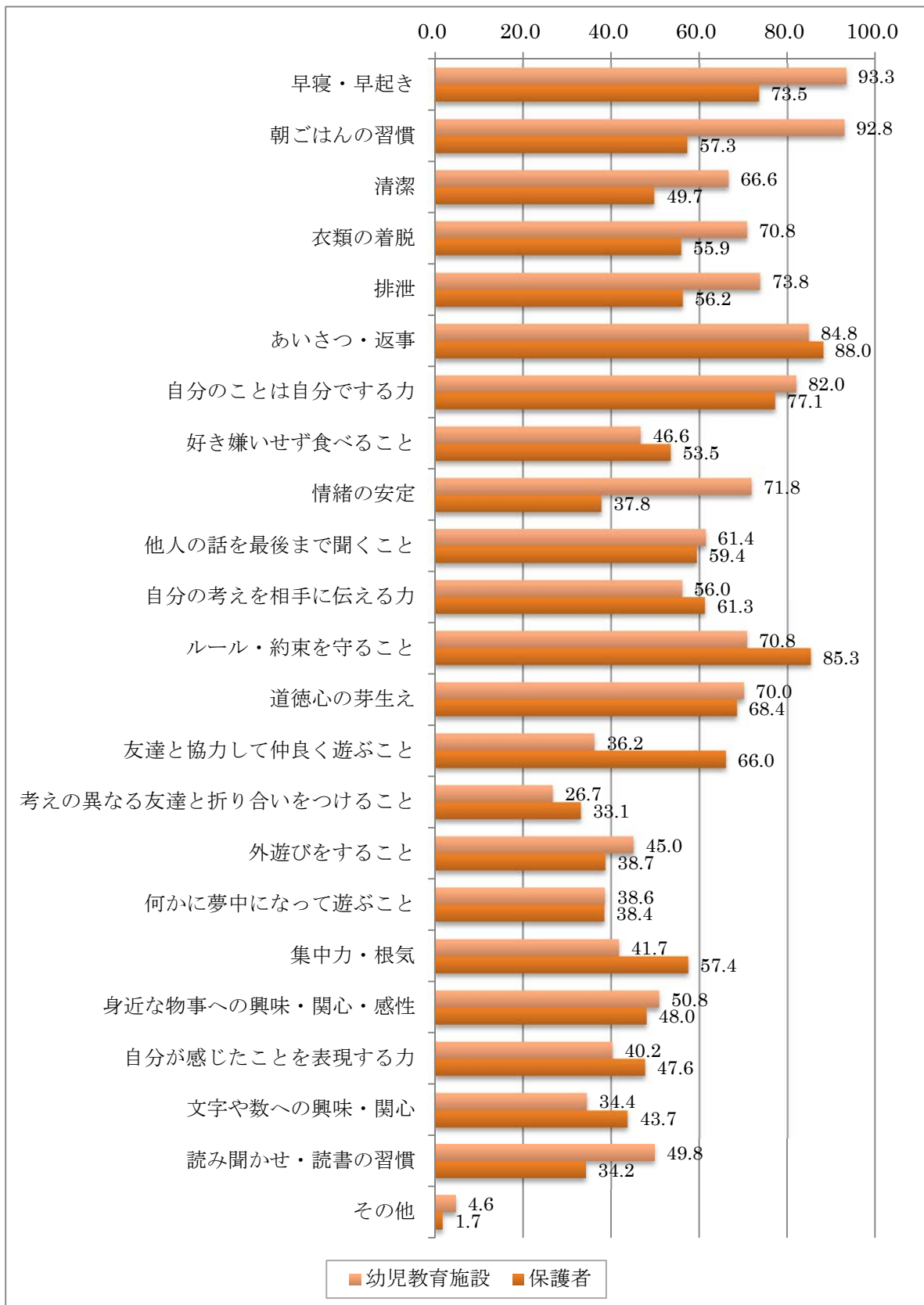
子どもがテレビ・ビデオを見たり、ゲームで遊ぶ時間は、「1～2時間」が約4割（42.0%）で最も高く、次いで「2～3時間」（25.9%）、「0～1時間以内」（19.9%）となっている。

●読書について



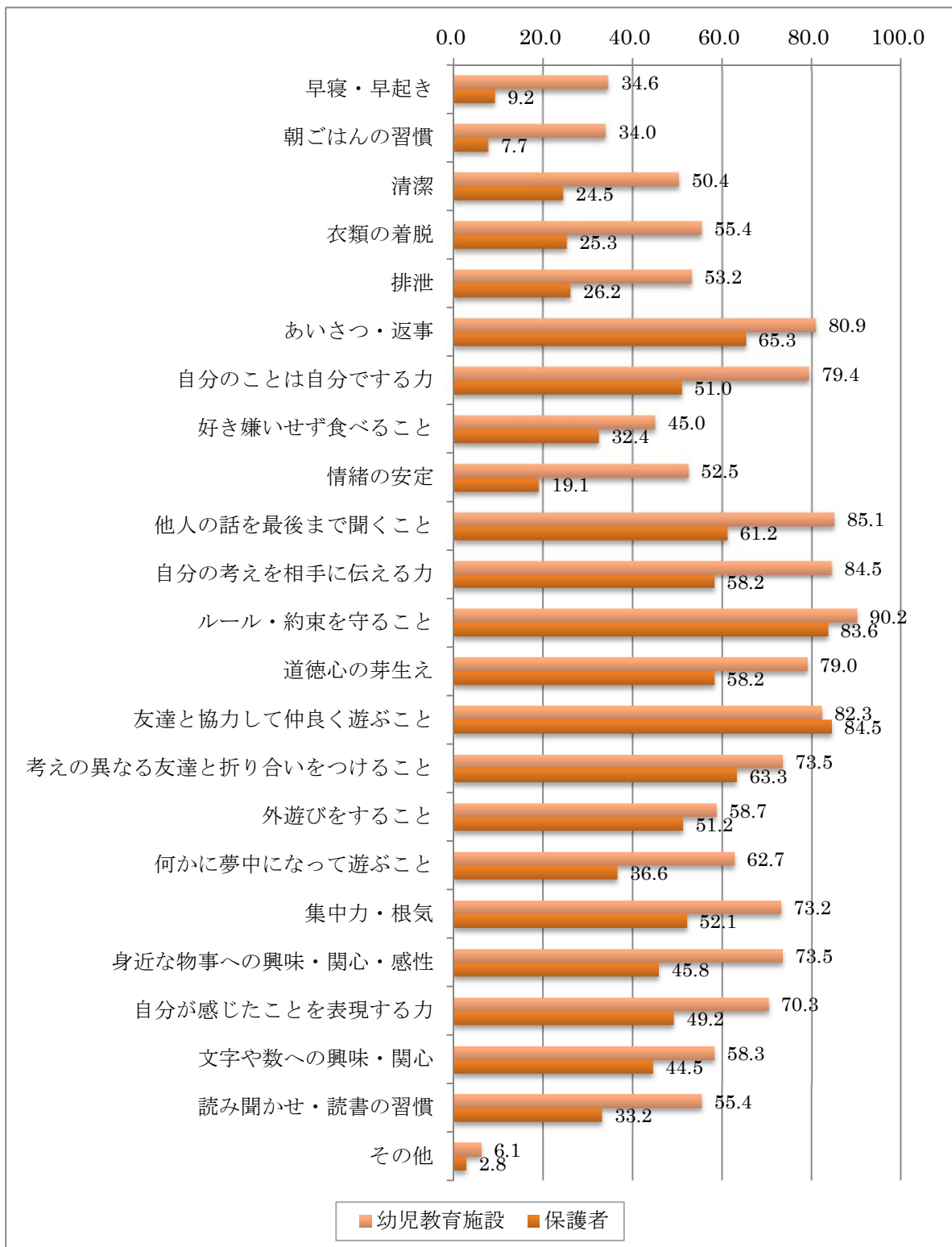
絵本の読み聞かせについては、「週に1～2日、読み聞かせを行っている」（34.9%）が最も高く、「ほぼ毎日、読み聞かせを行っている」（19.9%）と「週に3～4日、読み聞かせを行っている」（19.8%）を合わせた約4割（39.7%）の家庭が週に3日以上は絵本の読み聞かせを行っていると考えられる。

●小学校入学までに、「家庭」での教育で子どもたちに身に付けて欲しいこと



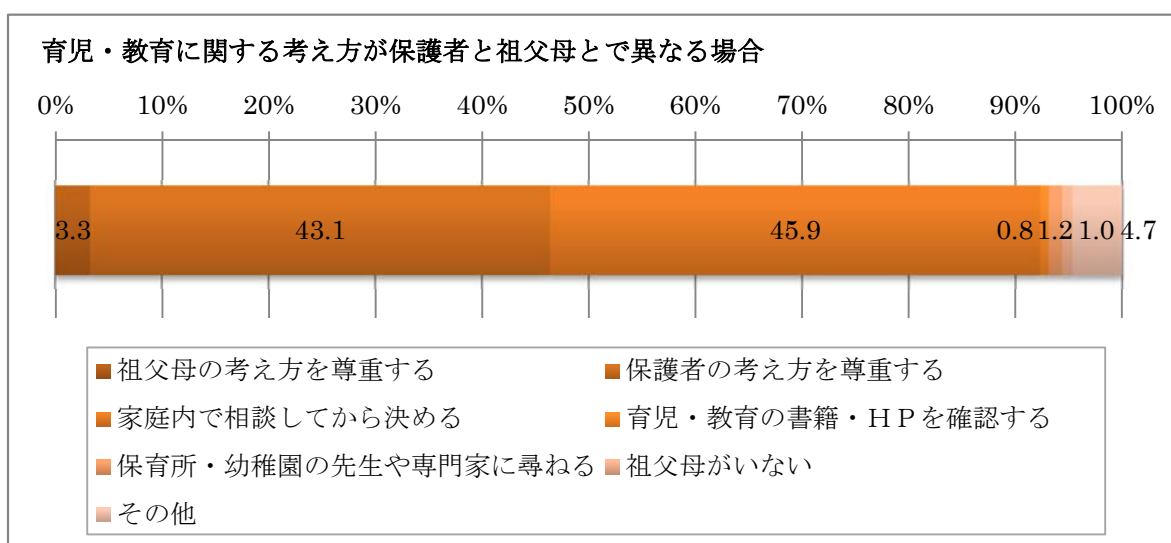
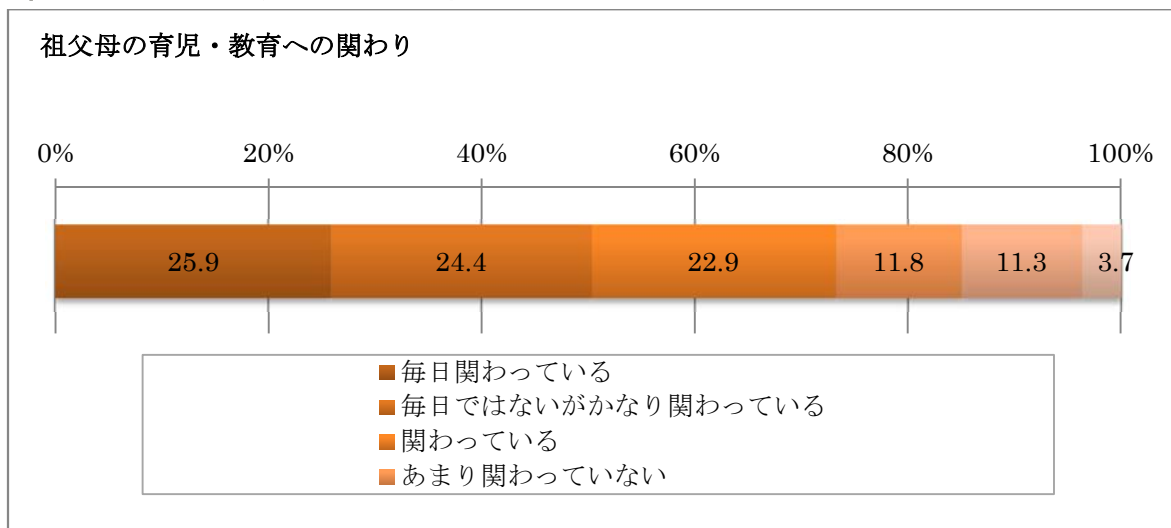
保護者が、「家庭」での教育において小学校入学までに子どもに身に付けて欲しいことは、「あいさつ・返事」(88.0%)、「ルール・約束を守ること」(85.3%)が、ともに8割を超えている。また、その他として、言葉づかい、食事のマナー、片付けの習慣等の回答があった。

●小学校入学までに、「施設」での教育で子どもたちに身に付けて欲しいこと



保護者が、「幼稚園・保育所等」での教育において小学校入学までに子どもに身に付けて欲しいことは、「友達と協力して仲良く遊ぶこと」(84.5%)が最も高く、次いで「ルール・約束を守ること」(83.6%)となっている。その他として、競争心、集団生活の楽しさ、他者への思いやり等の回答があった。

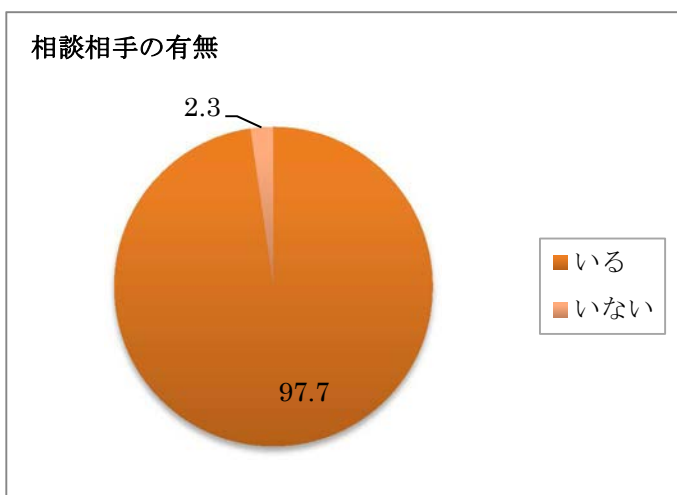
●祖父母の育児・教育へのかかわり



祖父母が育児・教育について、約7割（73.2%）が「関わっている」と回答しており、「関わっていない」（26.8%）を大きく上回っている。

また、育児・教育に関する考え方が保護者と祖父母で異なる場合、「家庭内で相談してから決める」（45.9%）、「保護者の考え方を尊重する」（43.1%）がそれぞれ4割以上を占めており、「祖父母の考え方を尊重する」（3.3%）は1割に満たなかった。その他として、時と場合により双方の考えを尊重する、祖父母と話し合う、異なることがない、祖父母は育児・教育に関わらない等の回答があった。

●教育・子育ての相談について



教育・子育てについて相談できる相手が「いる」と回答した割合が9割以上(97.7%)となっている。

相談相手については、「同年代の子どもを持つ友人」と回答した割合が約8割(82.6%)となっており、次いで「祖父母」(77.5%)、「幼稚園・保育所の先生」(52.5%)となっている。

その他として、会社の人、支援センターの相談員、助産師等の回答があった。

